

目的：生活の場を形成する一要素である「色」はヒトの感情や行動と密接に係る事象であるが、洗浄、漂白その他の被服整理における処理効果を客観的にかつ簡便に評価するために反射率や色彩の測定値を利用してきた。色彩評価の方法は複数の様式が規格化され、実用されている。本報告ではパーソナルコンピュータの周辺機器として汎用されているイメージスキャナから取り入れた色彩情報を相互に換算し、一般の測色機のデータと比較してその特徴を調べ、洗浄その他の処理効果の判定における有用性を検討した。

実験装置：①パソコン・イメージスキャナ装置 イメージスキャナ（エプソン、GT-1000）、パソコン（NEC 9801 DAU2）、フレームボード（デジタルアーツ社 ハイパーフレーム+） ②ホトボルト比色計（東洋精機） ③色彩色差計（ミノルタ CS-100）

結果：イメージスキャナによる色彩評価では一般の測色機器と比較して、色により若干の偏りが見出された。ホトボルト比色計との比較では、①明度 全体にやや低い ②色相 緑色系統の色と紫色の一部は一致が良好であるが、その他は幾分低角度に出現した ③彩度 やや大きい事例が多い。

彩度がより明確に表示されることから微細な色差を評価しやすく、必要な修正を加えることにより洗浄その他の処理の評価に有効に利用することが可能である。